

とおいた土木未来プラン2005

(計画期間:平成18年度～27年度の10年間)

基本理念

「景観十年、風景百年、風土千年」（「風土工学」富士常葉大学：竹林征三）という言葉が表すように、技術が生み出す価値は未来への種であり、それを芽吹かせ、育て、やがてその地の風土となって人々の生活に溶け込んでいくことが社会資本の理想の姿です。

世代を超えて、「関わった人・造った人の想い（生命）がこもり、利用する人々の安全・安心（生命）が守られ、次世代の人々（新しい生命）がその価値を讃える」ような“生命を紡ぐ県土づくり”を進めます。

県土づくりの基本指針

県土づくりにあたって、常に意識しておきたい4つの視点を掲げ、構想計画等の段階から実行していきます。

1. 自然環境との調和と循環型社会への対応

環境影響評価の実施などにより環境に配慮するとともに、建設廃材の再利用や再資源化など建設リサイクルの推進に努めます。

2. 効率的・効果的な整備の推進

構想段階から緊密な地域との協働を進め、必要かつ緊急を要する施策への重点化を図るとともに、各段階での厳正な事業評価を行い、実施にあたっては積極的なコスト縮減に努める一方、品質の確保を図ります。

3. 施設の適切な維持管理と長寿命化

施設の「点検台帳」を整備し、更新時期の平準化、ライフサイクルコストの縮減など適切な維持管理に努めます。

4. 危機管理体制の充実と総合的な防災対策の推進

平常時からの危機管理意識の醸成と、非常時における迅速な対応、被災した施設の早期復旧に努めます。

県土づくりの3つの戦略

これまでの成果を明らかにしたうえで、基本理念、基本指針に則した今後の県土づくりを進めるための戦略、施策に取り組みます。

1. 安心して生活できる県土づくり

- 土砂災害の防止（土砂災害から県民を守る取組を強化する）
- 浸水被害の防止（浸水被害地域の対策を進める）
- 地震災害への備え（緊急輸送道路の耐震補強等を進める）
- 交通安全の推進（バリアフリー化や事故多発危険箇所の対策を強化する）
- 水資源の確保（建設中のダムの整備を進める）

2. 交通ネットワークの充実

- 広域交流を支える道路網の形成（広域交流を支える高速道路等のネットワークの形成を図る）
- 地域を支える道路網の充実（日常生活等を支える道路の整備を進める）
- 海上輸送拠点の充実（フェリー埠頭の整備を進める）

3. 快適な生活環境の創造

- 快適な都市空間の形成（土地区画整理や都市公園の整備を進める）
- 生活排水処理の向上（地域の実情に応じた処理施設の整備を進める）
- 渋滞・騒音の軽減（渋滞カ所の対策や低騒音舗装を推進する）
- 住宅環境の向上（バリアフリー化や気候・風土に適合し環境に配慮した住まいづくりを進める）

平成22年度 達成度報告書

作成目的

平成18年3月に策定した土木建築部長期計画「おおいた土木未来(ときめき)プラン2005」の、毎年度の進行管理を行い、また、その結果を今後のプランの見直しや土木建築行政に反映するために作成しました。

記載内容

○各戦略毎の22年度の主な取組状況

22年度に完成した箇所やその効果などを例に挙げ、各戦略を達成するために実施した取組をわかりやすく紹介しています。

○目標指標の達成状況

各戦略毎に掲げた目標指標の最終(27年度)目標に対する22年度末の到達度合いを「到達度」として示しており、本文中には22年度の目標値と実績値を比較した達成率を明示しています。

○業績評価

指標の評価は、戦略毎に設定した目標指標をどれだけ到達しているかを示す指標として

①増加目標を設定している目標指標

$$(22年度実績値 - 計画時) \div (27年度目標値 - 計画時)$$

②減少目標を設定している目標指標

$$(計画時 - 22年度実績値) \div (計画時 - 27年度目標値)$$

で判定しています。

※ 50%以上	(目標を達成している)	～	達成
※ 40%以上50%未満	(目標を概ね達成している)	～	概ね達成
※ 40%未満	(目標達成度が不十分である)	～	達成不十分

達成状況

プラン実行5年目である22年度の評価結果は以下のとおりで、目標指標は、ほぼ達成されています。

業績評価	目標指標数
達成	16 (80.0%)
概ね達成	0 (0.0%)
達成不十分	4 (20.0%)
計	20 (100.0%)

「^{と き の き}おおいた土木未来プラン2005」 平成22年度達成度報告書 目標指標表

項 目	単 位	計 画 時 (H16)	平成22年度				
			目標値 (H27)	目標値 (H22)	実績値	到達度	業績評価
安心して生活できる県土づくり							
土砂災害保全人家戸数	戸	22,281	26,800	25,400	25,501	71.3%	達成
時間雨量50mmに対応できる河川 (河川整備率)	%	38.3	42.0	40.3	39.7	37.8%	達成不十分
浸水対策が必要な地域数	地域	50	20	24	22	93.3%	達成
耐震性能を有する住宅の割合	%	68	90	5年毎の住宅土地統計調査の結果により公表 (20年度の実績値 : 70%)			
旧市町村間を結ぶ緊急輸送道路ルート確保率 (橋梁耐震補強)	%	40	100	79	79	65.0%	達成
死傷事故率	件/億台・年	74.2	69	71.4	62.3	228.8%	達成
歩行者・自転車の死傷事故件数	件	1,699	1,550	1,618	1,417	189.3%	達成
指定通学路(小学校)の歩道整備率	%	50.6	59	56	56.7	72.6%	達成
交通ネットワークの充実							
県都大分市の中心部まで概ね60分で到達 できる人の割合	%	89.8	94	92	92.7	69.0%	達成
高速道路1Cに概ね30分で到達できる人の 割合	%	86.2	97	94	95.0	81.5%	達成
日常生活の中心となる都市まで概ね30分で 移動できる人の割合	%	93.6	99	97	94.8	22.2%	達成不十分
救命救急センターに概ね60分以内に到達 できる人の割合	%	91.0	95	94	93.7	67.5%	達成
フェリー航路の利用台数	万台	89.4	96	93	72.7	計画時を下 回っている	達成不十分
港湾の貨物取扱量	百万 トン	119.0	133	127	112	計画時を下 回っている	達成不十分
快適な生活環境の創造							
都市内の街路整備	km	535	600	571	586	78.5%	達成
土地区画整理 施行面積	ha	2,475	2,863	2,686	2,800	83.8%	達成
一人あたり都市公園面積	m ² /人	10.8	13.0	12.0	12.7	86.4%	達成
生活排水処理率	%	58.6	73.1	67.0	67.2	59.3%	達成
渋滞対策が必要な箇所数	箇所	22	5	9	8	82.4%	達成
バリアフリー化された県営住宅の割合	%	11.2	22.0	16.0	17.5	58.3%	達成
高齢者対応の県営住宅の割合	%	21.0	31.0	26.6	27.2	62.0%	達成
※到達度算定式 ①増加目標を設定している目標指標 (22年度実績値-計画時)÷(27年度目標値-計画時) ②減少目標を設定している目標指標 (計画時-22年度実績値)÷(計画時-27年度目標値)			到達度		業績評価	項目数	
			50%以上		達成	16	
			40%以上50%未満		概ね達成	0	
			40%未満		達成不十分	4	
			計			20	